

## ○一般社団法人 日本森林学会 2017（平成 29）年定時総会 議事録

日時：2017（平成 29）年 5 月 23 日（火）10:00～11:50

場所：東京都千代田区六番町 日林協会館 3 階 大会議室

代議員の現在数：50 名

出席した代議員：尾張敏章，中村太士，駒木貴彰，浅野友子，井上真理子，太田祐子，小島克己，白石則彦，田中浩，土屋俊幸，戸田浩人，則定真利子，福田健二，星比呂志，正木隆，松本麻子，蔵治光一郎，竹中千里，黒田慶子，谷誠，吉永秀一郎，佐藤宣子（22 名）

議決権を委任した代議員：柿澤宏昭，渋谷正人，森本淳子，泉桂子，清和研二，中村克典，林田光祐，生方正俊，丹下健，津村義彦，木佐貫博光，戸丸信弘，中川弥智子，肘井直樹，松田陽介，大住克博，大園享司，神崎護，鈴木保志，谷川東子，鳥居厚志，寺岡行雄，藤掛一郎，光田靖，吉田茂二郎（25 名）

出席した役員等：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，常任理事）堀靖人，竹中千里，福田健二，太田祐子，宮本麻子，正木隆，理事）佐藤宣子，大河内勇，平田泰雅，井出雄二，小島克己，井上真理子，監事）白石則彦，主事）細田和男，大橋伸太，久本洋子，小長谷啓介，古川拓哉，竹本太郎，橋本昌司，花岡創，岩永青史，宮本和樹，事務局）稲村崇子

議長：土屋俊幸

### 議事の経過の概要及びその結果：

堀総務理事によって代議員の過半数の出席または代理出席が報告され，開会した。中村会長の挨拶に続き，議長に土屋代議員が選出され，議事に移った。議事録署名人に中村代議員と白石代議員が選任され，書記に細田主事が指名された。本定時総会の審議・報告事項は，以下のとおりである。

### 決議事項：

#### 第 1 号議案 2016 年度事業報告（案）（別紙資料 1）

堀理事から説明があり，学生会員から一般会員への移行状況について質疑があったのち，満場一致で承認された。

#### 第 2 号議案 2016 年度決算報告（案）（別紙資料 2）

竹中理事から説明があった。会費の納入状況について質疑があり，毎年個人会員の 5%程度が会費未納のまま除名になっていること，現在は利用率 30%程度である自動口座引落の利用促進を図る方針が説明されたのち，満場一致で承認された。

#### 第 3 号議案 日本森林学会定款の改正（案）（別紙資料 3）

堀理事から説明があり，満場一致で承認された。

#### 第 4 号議案 日本森林学会選挙規則の改正（案）（別紙資料 4）

堀理事から説明があり，満場一致で承認された。

#### 第 5 号議案 日本森林学会表彰規則の改正（案）（別紙資料 5）

正木理事から説明があり，満場一致で承認された。

#### 第 6 号議案 役員（大会担当理事）の選任

大会担当の曾根常任理事（第 128 回大会運営委員長）の辞任を受けて，信任投票により，後藤純一会員（高知大学，第 129 回大会運営委員長）が常任理事（大会担当）に選任された。任期は前任者の残任期間（2018 年定時総会終結時まで）である。

## 報告事項：

### 報告事項 1 2016 年度監事監査報告

白石監事から、4月17日に柿澤監事とともに監査を行い、事業および会計ともに適法かつ正確と認められたことが報告された。

### 報告事項 2 2017 年度事業計画（別紙資料 6）

堀理事から報告された。これに関連し、日林誌の発送遅延や日林誌、JFR、森林科学の冊子体印刷の要否について質疑があり、中村会長より、三誌の位置づけや冊子体印刷の意義を理事会として改めて議論し、また日林誌の定時発送に努める方針が示された。

### 報告事項 3 2017 年度予算（別紙資料 7）

竹中理事から報告された。

### 報告事項 4 内規の改正

学会各賞の選考手続きにおいて、表彰委員自身が候補業績の著者や推薦者などであることにより投票資格がない場合、その表彰委員には当該業績の選考資料を送付しないというこれまでの慣例があった。この慣例を明文化するため表彰規則運用内規を改正したことが堀理事から報告された。また、定款において企画広報委員会を広報委員会に改称することなどに対応して、理事会内規、企画広報委員会内規、ウェブサイト編集委員会内規、「日本森林学会メールマガジン」発刊要領をそれぞれ改正したことも報告された。また、佐藤理事から新たに企画委員会内規を制定したことが報告された。

### 報告事項 5 学術大会の準備状況

第129回大会について、後藤純一大会運営委員長の代理として堀理事から、2018年3月26～29日に高知大学朝倉キャンパスおよび高知県立県民文化ホールで開催されること、林業大学校に関する公開シンポジウムを企画中であることや大会の収支見込が報告された。また第130回大会は関東森林学会からの推薦にもとづき、開催機関を新潟大学に決定し、大会運営委員長は紙谷智彦会員（新潟大学）に委嘱したことが報告された。

### 報告事項 6 2016 年度林業遺産の選定

中村会長から「伊豆半島の森林史に関する資料」、「小石原の行者杉」、「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」、「蒸気機関車『雨宮 21 号』と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群」、「初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林」、「木曾式伐木運材図会」、「足尾における治山事業による緑の復元」の7件が新たに選定され、既存の「吉野林業」については吉野貯木場等を含め追加選定されたことが報告された。

以上で本定時総会の全ての議案の審議、報告を終了し、議長が解任されて閉会した。

議事録作成者：堀靖人、細田和男

## 別紙資料1 一般社団法人日本森林学会 2016(平成28)年度事業報告

(1) 「日本森林学会誌」の発行：2016年4月(第98巻第2号)、6月(同3号)、8月(同4号)、10月(同5号)、12月(同6号)および2017年2月(第99巻第1号)の年6回発行し、科学技術振興機構のJ-STAGEで公開した。論文29編、短報8編、総説1編、その他(巻頭言・書評・研究資料)3編および学会記事を掲載し、総計318ページとなった。ページ数は昨年度に比べて約30%増であった。第99巻第1号より、表紙写真を変更した。また、第99巻に掲載予定の特集企画案の募集を行った。

(2) 「Journal of Forest Research」の発行：2016年4月(Vol. 21 No. 2)、6月(No. 3)、8月(No. 4)、10月(No. 5)、12月(No. 6)および2017年2月(Vol. 22 No. 1)の年6回発行した。特集“Climate change - mitigation, impacts and adaptation in the forestry sector”を含めたOriginal Article 33編、Short Communication 11編を掲載した。総ページ数は396ページとなり、昨年度に比べて1.2倍に増加した。出版社が2017年2月発行の22巻よりSpringer Japan社からTaylor & Francis社へ変更した。それに伴い出版社との契約を取り交わし、投稿規定や内規等の変更をおこなった。また、表紙デザインをリニューアルするとともに、冊子のサイズをA4版に変更した。Ecological research (ER)との合同特集号(Virtual Issue)“Ecological aspects of management of overabundant deer populations”を発行した。電子版の周知を図るため、メールマガジンを用いて会員に発行を知らせるとともに、日林誌と学会ウェブサイトで発表論文の日本語書誌情報を掲載した。2015年のImpact Factorは0.929で、2014年(0.775)より上昇した。2015年の5-year Impact Factorは1.121であった。

(3) 「森林科学」の発行：2016年6月(77号)、10月(78号)、2017年2月(79号)の年3回発行した。特集「森林土壌—国際土壌年 2015 を記念して—」「林業労働者のいま」「シカによる影響を低減するための最新知見と課題」をはじめ、シリーズ「森めぐり」「現場の要請を受けての研究」「うごく森」「森をはかる」「林業遺産」等、総計162ページを掲載した。79号よりJFRの冊子サイズ変更に合わせて、冊子のサイズをA4版に変更した。77号よりオンライン公開における会員限定閲覧期間を2年から1年に変更した。また、オンラインバックナンバーについて、J-Stage公開に向けて準備を進めた。

(4) 「日本森林学会メールマガジン」の発行：第70号(2016年3月)～第81号(2017年2月)を発行した。

(5) ウェブサイトの更新：ウェブサイト更新を随時行い、最新情報を掲載した。大会や表彰をはじめとする各種の学会情報を会員に発信するとともに、学会刊行物などの学会活動について随時発信・広報した。大会発表申し込みおよび発表要旨集のオンライン入稿を支援した。大会ページの視認性・わかりやすさを高めた。その他、研究集会・シンポジウムや公募等の関連情報を提供・広報した。

(6) 第127回日本森林学会大会の開催：関東森林学会の推薦により、神奈川県藤沢市(日本大学生物資源科学部)で開催した(2016年3月27～30日；大会運営委員長：井上公基会員、日本大学)。研究発表は総計857件で、内訳は部門別口頭発表171件、部門別ポスター発表472件、公募セッション口頭発表86件、公募セッションポスター発表35件、企画シンポジウム口頭発表93件であった。中等教育連携推進委員会により高校生ポスター発表を併催した。公開シンポジウム「潤いのある都市をつくる森林」を、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催した。学会企画として、「和文の論文執筆や審査の経験を共有しよう—投稿原稿、審査に

に対する回答書，そして査読レポートの書き方を中心に」，「大学院生のための申請書作成指南—学術振興会の特別研究員（DC1～PD）の応募手法—」および「森林・林業分野職業研究会」を開催した。「第127回日本森林学会学術講演集」を発行した。

**(6) 第128回日本森林学会大会の開催準備：**九州森林学会の推薦により，鹿児島大学郡元キャンパスおよびかごしま県民交流センター（鹿児島市）での開催を準備した（2017年3月26～29日；大会運営委員長：曾根晃一会員，鹿児島大学）。2016年5月19日に大会運営委員会引継会議を実施した。公募セッションと企画シンポジウムを会員から公募し，それぞれ10件を採択，13の部門別口頭・ポスター発表とともにウェブ登録システムによって研究発表申込を受け付けた。第4回高校生ポスター発表を企画し，全国の高校からの発表申込を受け付けた。公開シンポジウム「木質バイオマス利用の現状と将来」を企画した。学会企画として「林政・風致・経営，観光・レクリエーション，教育分野のあり方検討会」，「大学院進学とその後の進路の選択—どのように社会に出て行くのか—」および「論文執筆や審査の経験を共有しよう Part 2—回答書や英語論文を書いてみる—」の準備を進めた。以上を含めて大会プログラムの編成を行い，「第128回日本森林学会学術講演集」を編集した。

**(8) 第129回日本森林学会大会の開催準備：**応用森林学会の推薦に基づき，大会開催機関を高知大学とし，大会運営委員長（後藤純一会員，高知大学）を委嘱し，大会運営委員会を組織した。

**(9) 日本森林学会各賞の選考および日本農学賞等への学会推薦：**日本森林学会賞は，谷尚樹会員（国際農林水産業研究センター）の「東南アジア熱帯林の主要構成樹種であるフタバガキの花粉散布様式と繁殖特性の解明と択伐施業への応用」，岩田隆太郎会員（日本大学）の「木質昆虫学序説の出版」，大園享司会員（同志社大学）の「落葉分解菌類の多様性と分解機能に関する生態学的研究」に，日本森林学会奨励賞は，田中憲蔵会員（森林総合研究所）の「Height-related changes in leaf photosynthetic traits in diverse Bornean tropical rain forest trees」，篠原慶規会員（九州大学）の「モウソウチク林の拡大が林地の公益的機能に与える影響：総合的理解に向けて」，小松雅史会員（森林総合研究所）の「Characteristics of initial deposition and behavior of radiocesium in forest ecosystems of different locations and species affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident」に，日本森林学会学生奨励賞は，東若菜会員（京都大学）の「Function and structure of leaves contributing to increasing water storage with height in the tallest *Cryptomeria japonica* trees of Japan」に，日本森林学会功績賞は，黒丸亮会員の（北海道立総合研究機構）「炭素固定能の優れたグイマツ雑種F1「クリーンラーチ」等の開発と早期普及」に授与することを決定した。また，Journal of Forest Research 論文賞は，JFR 論文賞選考委員会が選考し，理事会で審議した結果，同誌20巻5号に掲載の Ian D. Thompson 「An overview of the science- policy interface among climate change, biodiversity, and terrestrial land use for production landscapes」と，21巻1号に掲載の Atsushi Tamura 「Potential of soil seed banks in the ecological restoration of overgrazed floor vegetation in a cool-temperate old-growth damp forest in eastern Japan」に，日本森林学会誌論文賞は，日林誌論文賞選考委員会が選考し，理事会で審議した結果，97巻1号に掲載の平岡 裕一郎・高橋 誠・渡辺 敦史「林木育種における地上LiDAR計測の応用 - スギ精英樹F1家系における樹幹形質の評価-」に，第127回日本森林学会大会学生ポスター賞は，ポスター賞選考委員会が選考し，理事会で審議した結果，20名の学生会員に授与することを決定した。また，日本学術振興会賞，日本学術振興会育志賞，日本農学進歩賞，日本農学会賞について，会員

からの推薦を受け付け、理事会で本学会推薦業績を決定した。

(10) **学会活動の活性化**：会員拡大、ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動、および連携学会・他学会・外部機関との連携強化を通じて、学会活動の活性化に努めた。

(11) **男女共同参画の取り組み**：2016年12月8日に、上映事業「屋久島の森に眠る人々の記憶」（主催：林業女子会@栃木、共催：国立歴史民俗博物館）を後援した。また、男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケートへの回答を行った。森林学会からは229名の回答があり、学協会全体では18,159名の回答があった。

(12) **JABEE（日本技術者教育認定機構）への協力**：JAFEE（森林・自然環境技術者教育会）の基幹的な学会として、JABEEやJAFEEの活動・運営に協力し、関連学協会との連携を図り、森林分野の技術者教育の向上を進め、CPD（技術者継続教育）事業の推進に協力した。

(13) **連携学会（旧支部）との連携**：各連携学会（北方森林学会、東北森林科学会、関東森林学会、中部森林学会、応用森林学会、九州森林学会）大会を共催し、会長ほか役員を派遣した。また、2016年12月に第459回理事会と併せて連携学会長会議を開催し、各連携学会の活動状況と課題を共有した。

(14) **日本木材学会との連携**：「日本森林学会と日本木材学会との交流に関する覚書」に基づき、相互に理事を派遣し、また学術大会へ役員を招待した。

(15) **公開シンポジウムの開催**：第127回日本森林学会大会の公開シンポジウム「潤いのある都市をつくる森林」の報告を「森林科学」第78号に掲載した。2016年5月31日、東京・日林協会館において公開シンポジウム「森林・林業の研究―現場をダイバーシティネットワークでつなげる」を主催した。第128回大会の公開シンポジウム「木質バイオマス利用の現状と将来」を企画し、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」に応募、採択され、準備を進めた。

(16) **国際学術交流の推進**：東アジアをはじめとする諸外国との国際的学術交流を進め、2016年10月24日に日本森林学会、Korean Forest SocietyおよびChinese Society of Forestryのそれぞれ二者間で学術交流を推進するためのMOUを締結した。2017年2月24日、Korean Forest Societyが主催した国際シンポジウムに田中副会長が出席し、「日本における森林政策への研究開発の貢献」と題する講演を行った。

(17) **関連学協会への協力と社会連携の推進**：協力学術研究団体として日本学術会議に協力し、日本学術会議の会員および連携会員の候補者を推薦した。日本農学会の運営に協力し、評議員と運営委員を派遣した。日本農学会シンポジウム「山の農学―山の日から考える」（2016年10月8日、東大弥生講堂）の企画に協力し、本学会の複数の会員が講演した。防災学術連携体に参加し、シンポジウム「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」（2016年12月1日、日本学術会議講堂）で本学会の会員が講演した。日本木材学会および土木学会とともに「土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会」を構成し、第7回木材利用シンポジウム「地盤改良に日本の森林資源を活かす」（2016年3月8日、土木会館）を開催した。また「土木分野における木材利用の拡大へ向けて」第2次提言の内容を検討した。科学技術振興機構からの依頼によりワークショップ「フューチャーグリーン」において本学会から報告を行った。公益財団法人PHOENIXの研究発表支援事業に協力した。ウッドデザインサポート連絡会に参加した。第15回木材利用研究発表会（土木学会木材工学委員会）、平成28年度公開セミナー「REDD+推進に向けて：官民投資の連携」（森林総合研究所REDD研究開発センター）および森林関連学会合同シンポジウム「主伐を考える」（林業経済学会）をそれぞれ後援した。日本流体力学学会2016（日本流体力学会）、流体力学基礎講

座「基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで」（日本機械学会流体工学部門）および第12回バイオマス科学会議（日本エネルギー学会）をそれぞれ協賛した。

**(18) 国内研究機関連携の推進：**森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査を実施した。

**(19) 各種補助金の申請：**昨年度に申請した2016年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化（B）」および「研究成果公開発表（B）」は採択されなかった。応用森林学会の発案により、公開シンポジウム「四国の竹林管理と竹材の新たな利用」（2017年11月）への助成を受けるため、日本森林学会として2017年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（B）」に応募した。第128回大会で開催予定の公開シンポジウム「木質バイオマス利用の現状と将来」については、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」に応募し採択された。

**(20) 他機関等の賞，奨励金，助成金，公募等の広報および候補の推薦** ウェブサイト，メールマガジン等により会員に対して随時，情報提供を行った。

**(21) 学会運営の改善：**役員間や各委員間の連絡，代議員や会員へのお知らせに電子メールを活用し，会議費と通信費を節減するとともに，意思決定や情報提供の迅速化に努めた。計11回の理事会のうち7回はメール理事会によった。学会賞の選考に今回から電子投票システムを採用し，郵送料の節減と選考事務の合理化を図った。刊行物のバックナンバー保管費の節減に向けて検討を進めた。

**(22) 林業遺産の選定：**新たに林業遺産 No. 15「若狭地域に継承された研磨炭の製炭技術」および No. 16「若狭地域の里山における熊川葛の生産技術」を認定し，2016年定時総会で発表した。また会員を通じて2016年度林業遺産候補の推薦を募り，林業遺産選定委員会において審議を進めた。

**(23) 中等教育との連携：**第127回日本森林学会大会において第3回高校生ポスター発表を実施した。発表数は38件，参加校数は20校で，その中から最優秀賞，優秀賞および学会長特別賞をそれぞれ2件ずつに授与した。当日の概要と講評を森林科学77号に掲載した。第128回大会における第4回高校生ポスター発表の準備を進めた。

**(24) 代議員および理事・監事候補選挙：**2016年度定時総会において理事および監事を選任した。

**(25) 一般社団法人としての対応：**改選に伴い，理事・監事を修正登記した。

## (26) 会員数の動向：

種 別	2013/3/1	2014/3/1	2015/3/1	2016/3/1	2017/3/1	前期との 差
正 会 員	2219	2341	2443	2396	2435	+39
国内一般会員	1807	1793	1868	1822	1871	+49
a) 日林誌のみ	1218	1225	1297	1279	1311	
b)+JFR	98	91	86	80	83	
c)+森林科学	233	216	222	209	215	
d)+両誌	258	261	263	254	262	
国内学生会員	386	525	561	563	553	-10
a) 日林誌のみ	331	481	527	523	514	
b)+JFR	11	6	2	3	8	
c)+森林科学	19	17	11	13	10	
d)+両誌	25	21	21	24	21	
海外在住一般会員	20	15	8	4	7	+3
a) 日林誌のみ	16	14	7	3	6	
b)+JFR	0	0	0	0	0	
c)+森林科学	1	0	0	0	0	
d)+両誌	3	1	1	1	1	
海外在住学生会員	6	8	6	7	4	-3
a) 日林誌のみ	1	3	3	3	1	
b)+JFR	5	5	3	4	3	
c)+森林科学	0	0	0	0	0	
d)+両誌	0	0	0	0	0	
機関会員	132	127	124	114	112	-2
国内機関	127	122	119	112	110	
海外機関	5	5	5	2	2	
賛助会員	40	42	40	39	39	+/-0
合 計	2391	2510	2607	2549	2586	+37
準 会 員	249	248	251	247	229	-18

別紙資料2 一般社団法人日本森林学会2016(平成28)年度決算

収支計算書

平成28年3月1日から平成29年2月28日まで

一般社団法人 日本森林学会

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	24,411,000	23,825,000	586,000	
個人入会費	20,331,000	19,910,000	421,000	
正学生会費	( 18,525,500 )	( 18,204,000 )	( 321,500 )	
準学生会費	( 1,805,500 )	( 1,706,000 )	( 99,500 )	
森林関係会費	580,000	555,000	25,000	
機関誌会費	( 580,000 )	( 555,000 )	( 25,000 )	
賛助会費	2,100,000	2,070,000	30,000	
印刷業務収入	( 2,100,000 )	( 2,070,000 )	( 30,000 )	
日林誌売上	1,400,000	1,290,000	110,000	
日森J森大会誌売上	( 1,400,000 )	( 1,290,000 )	( 110,000 )	
大森そ開催収入	6,650,000	5,055,488	1,594,512	
大森そ開催収入	6,120,000	4,730,408	1,389,592	
大森そ開催収入	( 400,000 )	( 377,784 )	( 22,216 )	
大森そ開催収入	( 2,900,000 )	( 2,161,440 )	( 738,560 )	
大森そ開催収入	( 140,000 )	( 145,484 )	( △ 5,484 )	
大森そ開催収入	( 2,200,000 )	( 1,537,200 )	( 662,800 )	
大森そ開催収入	( 100,000 )	( 106,720 )	( △ 6,720 )	
大森そ開催収入	( 380,000 )	( 401,780 )	( △ 21,780 )	
大森そ開催収入	530,000	325,080	204,920	
大森そ開催収入	( 250,000 )	( 186,840 )	( 63,160 )	
大森そ開催収入	( 130,000 )	( 138,240 )	( △ 8,240 )	
大森そ開催収入	( 150,000 )	( 0 )	( 150,000 )	
大森そ開催収入	8,750,000	9,248,165	△ 498,165	
大森そ開催収入	( 5,820,000 )	( 6,786,500 )	( △ 966,500 )	
大森そ開催収入	( 1,480,000 )	( 1,260,000 )	( 220,000 )	
大森そ開催収入	( 400,000 )	( 460,000 )	( △ 60,000 )	
大森そ開催収入	( 1,050,000 )	( 553,440 )	( 496,560 )	
大森そ開催収入	( 0 )	( 188,225 )	( △ 188,225 )	
大森そ開催収入	1,000,000	1,000,000	0	
大森そ開催収入	( 1,000,000 )	( 1,000,000 )	( 0 )	
大森そ開催収入	712,500	720,522	△ 8,022	
大森そ開催収入	( 7,500 )	( 3,923 )	( 3,577 )	
大森そ開催収入	( 700,000 )	( 713,539 )	( △ 13,539 )	
大森そ開催収入	( 5,000 )	( 3,060 )	( 1,940 )	
事業活動収入計	41,523,500	39,849,175	1,674,325	
2. 事業活動支出				
事業活動支出	20,981,000	19,603,712	1,377,288	
印刷製本費	19,090,000	17,864,867	1,225,133	
日林誌印刷製本費	( 14,250,000 )	( 14,173,175 )	( 76,825 )	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 5,200,000 ))	(( 4,976,834 ))	(( 223,166 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 6,850,000 ))	(( 6,970,500 ))	(( △ 120,500 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 2,200,000 ))	(( 2,225,841 ))	(( △ 25,841 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	( 2,750,000 )	( 1,782,842 )	( 967,158 )	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 230,000 ))	(( 8,820 ))	(( 221,180 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 60,000 ))	(( 43,480 ))	(( 16,520 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 80,000 ))	(( 46,282 ))	(( 33,718 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 500,000 ))	(( 476,820 ))	(( 23,180 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 1,100,000 ))	(( 969,840 ))	(( 130,160 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 780,000 ))	(( 237,600 ))	(( 542,400 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	( 2,090,000 )	( 1,908,850 )	( 181,150 )	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 2,000,000 ))	(( 1,845,113 ))	(( 154,887 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 30,000 ))	(( 16,416 ))	(( 13,584 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 20,000 ))	(( 8,028 ))	(( 11,972 ))	
日森J森大会誌印刷製本費	(( 40,000 ))	(( 39,293 ))	(( 707 ))	
企業活動費	15,000	0	15,000	
企業活動費	( 10,000 )	( 0 )	( 10,000 )	
企業活動費	( 5,000 )	( 0 )	( 5,000 )	
企業活動費	300,000	152,709	147,291	
企業活動費	( 100,000 )	( 31,861 )	( 68,139 )	
企業活動費	( 200,000 )	( 120,848 )	( 79,152 )	
企業活動費	6,000	0	6,000	
企業活動費	( 6,000 )	( 0 )	( 6,000 )	
企業活動費	70,000	44,214	25,786	
企業活動費	( 70,000 )	( 44,214 )	( 25,786 )	
企業活動費	1,500,000	1,541,922	△ 41,922	
企業活動費	( 0 )	( 5,000 )	( △ 5,000 )	
企業活動費	( 150,000 )	( 0 )	( 150,000 )	
企業活動費	( 1,050,000 )	( 1,051,432 )	( △ 1,432 )	
企業活動費	( 0 )	( 185,490 )	( △ 185,490 )	
企業活動費	( 300,000 )	( 300,000 )	( 0 )	



(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 会 事 業 費	8,750,000	8,178,717	571,283	
会 場 費	( 2,750,000 )	( 2,368,752 )	( 381,248 )	
印 刷 費	( 400,000 )	( 573,261 )	( △ 173,261 )	
代 行 費	( 1,480,000 )	( 1,054,401 )	( 425,599 )	
そ の 他 費	( 3,000,000 )	( 3,738,669 )	( △ 738,669 )	
林 業 遺 産 事 業 費	( 1,120,000 )	( 443,634 )	( 676,366 )	
管 理 費	200,000	92,320	107,680	
人 員 費	11,721,000	11,654,232	66,768	
給 与 費	7,935,000	7,917,103	17,897	
雑 費	( 5,940,000 )	( 5,942,533 )	( △ 2,533 )	
福 祉 費	( 1,000,000 )	( 1,012,360 )	( △ 12,360 )	
福 利 費	( 995,000 )	( 962,210 )	( 32,790 )	
福 厚 生 費	20,000	11,310	8,690	
議 費	945,000	1,000,801	△ 55,801	
旅 行 費	61,000	34,790	26,210	
通 信 費	260,000	274,334	△ 14,334	
消 耗 品 費	200,000	56,299	143,701	
新 聞 費	10,000	8,230	1,770	
諸 会 費	380,000	377,450	2,550	
支 払 借 借 料	425,000	422,135	2,865	
支 払 借 借 料	890,000	881,280	8,720	
支 払 借 借 料	350,000	418,500	△ 68,500	
支 払 借 借 料	225,000	216,000	9,000	
支 払 借 借 料	20,000	36,000	△ 16,000	
事 業 活 動 支 出 計 額	41,652,000	39,528,981	2,123,019	
事 業 活 動 支 出 差 額	△ 128,500	320,194	△ 448,694	
II 投 資 活 動 支 出 の 部				
1. 投 資 活 動 支 出 入 計	0	0	0	
2. 投 資 活 動 支 出 計 額	550,000	1,618,419	△ 1,068,419	
退 職 給 付 引 当 金 支 出	( 350,000 )	( 350,000 )	( 0 )	
名 簿 刊 行 積 立 資 産 取 得 支 出	( 200,000 )	( 200,000 )	( 0 )	
大 会 開 催 引 当 金 取 得 支 出	( 0 )	( 1,068,419 )	( △ 1,068,419 )	
投 資 活 動 支 出 計 額	550,000	1,618,419	△ 1,068,419	
投 資 活 動 支 出 差 額	△ 550,000	△ 1,618,419	1,068,419	
III 財 務 活 動 支 出 の 部				
1. 財 務 活 動 支 出 入 計	0	0	0	
2. 財 務 活 動 支 出 計 額	0	0	0	
財 務 活 動 支 出 差 額	0	0	0	
IV 予 備 費 支 出	0	0	0	
当 期 収 支 差 額	△ 678,500	△ 1,298,225	619,725	
前 期 繰 越 収 支 差 額	9,308,431	9,308,431	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額	8,629,931	8,010,206	619,725	

## 収支計算書に対する注記

## (注) 1. 資金の範囲

資金の範囲には現金・預金・前払金・未収入金・仮払金・未払金・前受金・預り金及び仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

## 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	774,974	1,610,456
郵 便 振 替 金	6,030,666	6,300,322
普 通 預 金	8,573,536	9,147,956
大 会 前 払 金	1,000,000	1,000,000
未 収 入 金	36,000	446,400
仮 払 金	67,635	1,153,040
合 計	16,482,811	19,658,174
未 払 金	511,880	5,068,968
前 受 金	5,209,000	5,210,500
大 会 前 受 金	1,453,500	1,368,500
合 計	7,174,380	11,647,968
次 期 繰 越 収 支 差 額	9,308,431	8,010,206

### 別紙資料3 日本森林学会定款の改正

現在の業務量と理事分担体制に対応して、主事の人数の上限を引き上げ、企画広報委員会を広報委員会と企画委員会に分離、併せて選挙規則で規定されている選挙管理委員会、また現在は臨時委員会である中等教育連携推進委員会をそれぞれ常置委員会に位置付けるため、定款第67条に基づく定款の変更が提案され、承認された。

#### 第5章 役員

##### (主事)

第40条 この学会に、主事 ~~12~~ 14名以内を置き、理事会の推薦により、会長が委嘱する。

2 主事は、理事を補佐し、その任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結のときまでとする。

3 主事は、理事会に陪席することができる。

#### 第10章 委員会

##### (委員会の設置)

第61条 理事会は、第4条に定めるこの学会の事業を推進するため、以下の委員会を常置するほか、必要な場合には臨時委員会を設けることができる。

(1) 学術大会運営委員会

(2) 日本森林学会誌（略称、日林誌）編集委員会

(3) Journal of Forest Research（略称、JFR）編集委員会

(4) 森林科学編集委員会

(5) ~~企画~~ 広報委員会

(6) 企画委員会

~~(6~~ 7) 表彰委員会

(8) 選挙管理委員会

~~(7~~ 9) 林業遺産選定委員会

~~(8~~ 10) プログラム編成委員会

~~(9~~ 11) 社会連携委員会

(12) 中等教育連携推進委員会

2 委員会の委員長は、会長が理事の中から指名する。委員会の委員それぞれ若干名は、その任期を2年とし、委員長が理事会に報告し、会長がこれを委嘱する。

#### 別紙資料 4 日本森林学会選挙規則の改正

定款において選挙管理委員会が常置委員会と位置付けられることに対応した、選挙規則の改正が提案され、承認された。

##### 第1章 選挙管理委員会

(選挙管理委員会)

第2条 選挙管理委員会（以下、委員会という）は、この学会の代議員及び役員選挙の執行管理業務を行うため、学会に選挙管理委員会（以下、委員会という。）を置く。

2 選挙に関して疑義を生じたときは、委員会の決議によって決定する。

## 別紙資料 5 日本森林学会表彰規則の改正

日本森林学会学生奨励賞への応募を促進するために授賞対象業績の期間を拡大すること、また学生ポスター賞の表彰式も原則として会期中に実施することを内容とする、選挙規則の改正が提案され、承認された。

(日本森林学会学生奨励賞)

第6条 日本森林学会学生奨励賞は、本会会員であつて、森林科学に関し発展性の高い論文を発表し、今後の研究の展開が期待される者に授与する。

2 前項の授賞の対象となる業績は、選考の年を含まない過去2か年以内 選考の年を含む過去3か年以内 に発表された論文又は著書等のうち一つとする。

3 前項の授賞の対象者は、前項業績の投稿時に学生である者とする。

(表彰)

第14条 表彰は、学生ポスター賞を除き、毎年、原則として学術大会開催期間中に行う。

## 別紙資料 6 一般社団法人日本森林学会 2017（平成 29）年度事業計画

- (1) **第 128 回日本森林学会大会の開催** 2017 年 3 月 26～29 日に鹿児島大学郡元キャンパスおよびかごしま県民交流センター（鹿児島市）を会場として開催し、学術講演集を発行する。
- (2) **第 129 回日本森林学会大会の準備** 高知大学を会場として開催準備を進める。公開シンポジウムへの助成金に応募する。また、ウェブ登録システムによって大会参加および研究発表の受付等を行い、大会プログラムを編成する。
- (3) **第 130 回日本森林学会大会の準備** 関東森林学会からの推薦に基づいて大会開催機関を決定し、大会運営委員長を委嘱し、大会運営委員会を組織する。
- (4) **「日本森林学会誌」の発行** 2017 年 4 月、6 月、8 月、10 月、12 月および 2018 年 2 月の年 6 回発行し、科学技術振興機構の J-STAGE で公開する。
- (5) **「Journal of Forest Research」の発行** Taylor & Francis 社から 2017 年 4 月、6 月、8 月、10 月、12 月および 2018 年 2 月の年 6 回発行する。
- (6) **「森林科学」の発行** 2017 年 6 月、10 月および 2018 年 2 月の年 3 回発行する。オンラインバックナンバーを J-STAGE で公開する。
- (7) **「日本森林学会メールマガジン」の発行** 第 82 号（2017 年 3 月）～第 93 号（2018 年 2 月）を発行する。
- (8) **ウェブサイトの更新** ウェブサイトを随時更新し、刊行物、公募、助成金、研究集会などの最新情報を掲載するとともに、セキュリティを強化する。
- (9) **日本森林学会各賞の選考および日本農学賞等への学会推薦** 日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会学生奨励賞、日本森林学会功績賞、Journal of Forest Research 論文賞、日本森林学会誌論文賞、第 128 回日本森林学会大会学生ポスター賞の審査・選考を行う。また日本農学賞、日本農学進歩賞等の推薦業績の審査・選考を行う。
- (10) **男女共同参画の取り組み** 第 129 回大会におけるランチョンミーティング「海外滞在と研究者家族（仮題）」を企画し、準備を進める。男女共同参画学協会連絡会の活動に参加し、情報交換と会員への情報提供に努める。
- (11) **林業遺産の選定** 定時総会において昨年度に選定された林業遺産を発表する。本年度の林業遺産候補の推薦公募を行い、審議・選定活動を行う。林業遺産の活用をテーマとするシンポジウム等の開催を検討する。
- (12) **JABEE（日本技術者教育認定機構）への協力** JAFEE（森林・自然環境技術者教育会）の基幹的な学会として、JABEE や JAFEE の活動・運営に協力するとともに、関連学協会との連携を図ることにより、森林分野の技術者教育の向上を進める。CPD（技術者継続教育）事業の推進に協力する。森林・林業人材育成のため、引き続き森林・林業技術者教育の動向について発信するとともに JABEE の普及に努める。
- (13) **関連学協会への協力と社会連携の推進** 日本学術会議および日本農学会の運営に協力する。社会連携委員会を通じて、当学会に関する情報発信や、防災学術連携体、ウッドデザインサポート連絡会など関連学協会との協力を推進する。
- (14) **連携学会（旧支部）との連携** 各連携学会（北方森林学会、東北森林科学会、関東森林学会、中部森林学会、応用森林学会、九州森林学会）大会を共催し、役員を派遣する。また北方森林学会に科研費「研究成果公開発表（B）」の発案を依頼し、日本森林学会として応募する。

(15) **日本木材学会との連携** 「日本森林学会と日本木材学会との交流に関する覚書」に基づき、木材学会との交流を深める。

(16) **国際学术交流の推進** 東アジアをはじめとする諸外国の関係学会と交流を進める。

(17) **国内研究機関連携の推進** 国内研究機関間の研究情報交換の実態把握のために、森林学会の会員動向調査を続ける。

(18) **中等教育との連携** 第 128 回日本森林学会大会において「高校生のポスター発表」（第 4 回）を計画し、外部支援を受け、林業大学校等との連携を図り、実施する。活動内容や運営体制について検討し、第 129 回大会の「高校生ポスター発表」（第 5 回）の実現に向けて活動する。

(19) **学会運営の改善** 財政の健全化への取組を継続し、電子メールを活用し、会議費や通信費を節減する。

(20) **代議員および理事・監事候補の選出** 2018 年定時総会終結時から 2020 年定時総会終結時を任期とする代議員選挙を行う。また次期代議員による代議員選出理事・監事候補互選投票を実施する。

(21) **一般社団法人としての対応** 定時総会で交代する大会担当理事を修正登記する。

## 別紙資料7 一般社団法人日本森林学会2017(平成29)年度予算

2017(平成29)年度 予算  
2017年3月1日から2018年2月28日まで

科 目	日本森林学会 2016年度予算 (2016.3~2017.2)	2016年度決算 (2016.3~2017.2)	2017年度予算 (2017.3~2018.2)	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
会費収入	24,411,000	23,825,000	24,715,000	
事業収入	6,650,000	5,055,488	4,782,000	
印刷物収入	6,120,000	4,730,408	4,462,000	JFR超過頁収入が請求手数料発生で20%減
広告料収入	530,000	325,080	320,000	※1
印税収入	0	0	0	※1
大会事業費収入	8,750,000	9,248,165	8,417,500	2017/2/10現在
補助金等収入	1,000,000	1,000,000	1,120,000	緑水ファンド(高校生ポスター発表)
雑業活動収入	712,500	720,522	717,000	※1
事業活動収入計	41,523,500	39,849,175	39,751,500	
2 事業活動支出				
事業費支出	20,981,000	19,603,712	19,476,000	
会誌等刊行費支出	19,090,000	17,864,867	17,145,000	※1
名簿刊行費支出	0	0	0	2017年度は実施しない
企画林業遺産事業費支出	15,000	0	15,000	※2
表彰費支出	300,000	152,709	300,000	※2
HP編集費支出	6,000	0	156,000	ウェブ暗号化5万増、SSL証明取得10万増
男女共同参画費支出	70,000	44,214	70,000	※2
学術振興費支出	1,500,000	1,541,922	1,670,000	中等教育(高校生ポスター)112万、中等教育委員会費10万、共催大会共催費30万、5月開催シンポジウム15万
役員選挙費支出	0	0	120,000	※3、電子投票システム初期費10万減
大会事業費支出	8,750,000	8,178,717	8,417,500	2017/2/10現在
林業遺産事業費支出	200,000	92,320	200,000	※2
管理費支出	11,721,000	11,654,232	11,968,000	
人件費支出	7,935,000	7,917,103	7,935,000	※1
福利厚生費支出	20,000	11,310	12,000	※1
会議費支出	945,000	1,000,801	955,000	※1
旅費支出	61,000	34,790	117,000	※1、大会開催地が遠方のため8万増
通信運搬費支出	260,000	274,334	370,000	※1、会費自動引き落とし書類郵送費9万円増
消耗品費支出	200,000	56,299	200,000	※1、事務局のプリンタ・シュレッダ更新14万増
新聞図書費支出	10,000	8,230	10,000	※1
諸会費支出	380,000	377,450	378,000	※1
支払手数料支出	425,000	422,135	425,000	※1
貸借料支出	890,000	881,280	890,000	※1
租税公課支出	350,000	418,500	420,000	※1
支払報酬料支出	225,000	216,000	220,000	※1
雑費支出	20,000	36,000	36,000	※1
事業活動支出計	41,652,000	39,528,981	40,061,500	
事業活動収支差額	△ 128,500	320,194	△ 310,000	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
特定資産繰入支出	550,000	1,618,419	550,000	
退職給付引当資産取得支出	350,000	350,000	350,000	
特別積立金引当資産取得支出	0	0	0	
名簿刊行積立資産取得支出	200,000	200,000	200,000	
大会開催引当資産取得支出	0	1,068,419	0	
投資活動支出計	550,000	1,618,419	550,000	
投資活動収支差額	△ 550,000	△ 1,618,419	△ 550,000	
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 678,500	△ 1,298,225	△ 860,000	
前期繰越収支差額	9,308,431	9,308,431	8,010,206	
次期繰越収支差額	8,629,931	8,010,206	7,150,206	

備考 ※1 : 2016年度決算を参照した  
 ※2 : 2016年度予算を参照した  
 ※3 : 2015年度決算を参照した